

平成29年3月10日

品川区議会議長

大 沢 真 一 様

行財政改革特別委員会

委員長 鈴木 ひろ子

### 行財政改革特別委員会の活動現況について

今期の行財政改革特別委員会では、「国家戦略特区に関すること」、「羽田空港の機能強化に関すること」、「公有地等、公共施設活用に関すること」および「補助金・助成金のあり方に関すること」の4件を調査事項とし、以下のとおり委員会活動を実施しております。

「国家戦略特区に関すること」では、平成28年に3回開催された東京圏国家戦略特別区域会議で認定された東京都の特定事業の状況について、情報を委員間で共有しました。また、国家戦略特別区域法・施行令等の改正により追加規制緩和策として位置づけられた「都市公園内占用保育所等施設設置事業」を活用し、公園内における認可保育園の開設を現在目指している西大井広場公園およびしながわ区民公園の2カ所の進捗状況について確認しました。

「羽田空港の機能強化に関すること」では、平成26年8月26日の「首都圏空港の機能強化の具体化に向けた協議会」において羽田空港の新しい滑走路運用・飛行経路として、15時～19時の南風運用時A・C滑走路着陸に際し品川区上空を通過する案が示されたことから、調査・研究を進めてまいりました。

6月には、国から示された「羽田空港機能強化における経済波及効果」について、調査・研究し、7月には、羽田空港に所在する東京空港事務所に赴き、旧管制塔の視察および国土交通省担当者との意見交換を行い、オープン型説明会に加え、教室型説明会の開催を強く求め、区民への丁寧な説明を行うよう要望してまいりました。

また、8月には、国から示された「羽田空港機能強化に係る環境影響等に配慮した方策」および、「品川区関連の配慮事項」について調査し、委員間で意見交換をおこなったところです。

さらに、「環境方策」が示されたものの、以前、具体的な対策は示されておらず、騒音、落下物やその他の事故の可能性など区民の不安は解消されていないとし、委員

会として、国に対して意見書を提出することを決定し、12月第4回定例会において全会一致にて可決に至りました。内容としては、国土交通省に対し、このまま事業を進めることへの危惧を表明し、品川区と十分な協議を行うこと、教室型説明会を含む多様な手法を工夫し、騒音、落下物、事故の可能性など、区民への影響と対策について、丁寧な説明を行うよう求めるものであります。

なお、本委員会に付託されました8件の請願、2件の陳情につきましては、数度にわたり、審議を致しましたが、現状に鑑み、継続審査としているところです。

「公有地等、公共施設活用に関すること」では、まず旧国家公務員宿舎小山台住宅・峰友寮、旧荏原第四中学校を視察しました。

その後、9月には旧荏原第四中学校について、区より活用の方向性が示されたことから、有効活用の可能性について意見交換を行いました。

また、旧国家公務員宿舎小山台住宅・峰友寮については、国からの取得等要望についての調査がくるなど動きがみられることから、適時適切に対応できる体制を整えておくことが重要であります。

「総合戦略」については、総合戦略策定までの経緯や目標値の考え方、また人口推計との関連性について、調査・研究を深めてまいりました。

「公共施設等総合計画」については、まず、計画の元となる「公共施設有効活用プラン」について理解を深め、総合計画策定の背景や構成、位置付けなどを確認し、現在の区有施設を地区別に調査し整理を行いました。素案に反映させるべく、活発な意見交換を行ったところであります。

「補助金・助成金のあり方に関すること」では、補助制度の計画・立案から、予算が編成・執行され、制度の効果等が検証されるまでの一連の流れについて説明を受け、現行制度の問題点や、区民にとってわかりやすい補助金・助成金のあり方等について、現時点における調査・研究を一定の点まで深めることができたと考えております。

これらの調査・研究をふまえ、今後の品川区の行財政改革の推進に生かしていただくべく、本委員会としてのまとめを作成し、提出いたします。

以上が、これまでの当委員会における活動現況の概要でありますので、ご報告いたします。

平成29年3月10日

品川区議会議長

大 沢 真 一 様

オリンピック・パラリンピック推進特別委員会

委員長 渡 辺 裕 一

オリンピック・パラリンピック推進特別委員会の活動現況について（報告）

今期のオリンピック・パラリンピック推進特別委員会（以下、「委員会」という。）は、「オリンピック・パラリンピックの推進に関すること」、「障害者スポーツの推進に関すること」および「文化プログラムの推進に関すること」を調査事項として昨年に引き続き設置され、議会運営委員会での議論をふまえた各項目について、調査を進めてまいりました。

具体的な調査・研究の内容といたしましては、まず「オリンピック・パラリンピックの推進に関すること」のうち、区内競技場周辺整備について、東京都オリンピック・パラリンピック準備局を視察し、幹部職員より大井ホッケー競技場の整備等に係る話を伺い、意見交換を行ってまいりました。また、舟運・水辺の利活用について、勝島南運河から京浜運河を経由して天王洲運河までの臨海部および都心を結ぶ運行航路を実際に舟航し、水辺の景観等を確認してまいりました。交通整備については、選手や大会関係者の輸送計画などの交通整備について、委員間で情報を共有するとともに、討議を行ってまいりました。区民のスポーツ振興、ボランティアの育成確保、気運醸成については、東京都や大会組織委員会および品川区の最新の取り組みについて理事者より説明を受け、東京大会の開催に向けての施策展開のあり方について研究を進めてまいりました。また、日本体育大学世田谷キャンパスを視察し、大学の取組み内容についてのお話を伺ってまいりました。

次に「障害者スポーツの推進に関すること」については、ブラインドサッカー出前体験教室を受講し、アイマスクや競技用のボールを実際に使用した競技体験を経た後、日本ブラインドサッカー協会との意見交換を行ってまいりました。また、バリアフリー整備に関して、大井競馬場前駅、新馬場駅等の区内競技会場の最寄駅をはじめとしたアクセシビリティの向上について、委員間での意見交換を行ってまいりました。

最後に「文化プログラムの推進に関すること」については、昨年度のしながわ水族館に引き続き今年度天王洲地区において開催されていた「アール・ブリュット展」を視察し、障害者アートに対する知見を深めてまいりました。また、品川区民芸術祭をはじめとした芸術・文化イベントの実施状況や、東京都、大会組織委員会の計画する東京大会に向けた文化芸術振興等を確認し、区内競技会場を擁する自治体としての今後の戦略について、議論を重ねてまいりました。

これらの調査・研究をふまえ、今後の品川区のオリンピック・パラリンピックの推進に活かしていただくべく、本委員会としてのまとめを作成し、提出いたします。

これらの成果は「大井ふ頭中央海浜公園および潮風公園の整備を求める要望書」として委員会の総意でまとめ、議会運営委員会でのご確認をいただいた後、平成 28 年 10 月 25 日、東京都オリンピック・パラリンピック準備局長あてに提出してまいりました。

以上が、これまでの当委員会における活動現況の概要でありますので、ご報告いたします。